

刊夕日十三月十

常警每日新聞

定価 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
 電話 五五五五
 印刷所 常警印刷局
 発行所 常警印刷局
 社址 東京都千代田区千代田

石城を歩める

芭蕉翁の足跡

青三郎

俳句とか、俳諧とかに、
 餘り縁遠い私ではあるが、
 我が國文學史上に於ける燦
 然たる文學作品として、し
 かも、古來よりの萬葉集、
 源氏物語、近松、西鶴等の
 文人墨客の勞を煩す文學以
 外の平易な文學として、一
 瞥無造作に、その文の意義
 を解釋し得るの快を多くす
 るものを尋ねる人あらば即
 座に、俳句をおすであらう
 と同時に、芭蕉、一茶、蕪
 村等の俳句文學なるものに
 大なる敬意を表するであら
 う。

【朝】すまし汁—ねぎ、
 むきみ
 【書】薄あんかけ—豆腐
 【晚】どびんむし—松茸
 ゆず

月を友として、伊賀の里か
 ら果なき旅路を、奥州にむ
 け、しかもその氣高き印跡
 を、我が石城の地に、しる
 したるを思えば、感慨無量
 なるものがある。

一茶が、飽く迄、人生を
 歌ふ詩人に比して、芭蕉は
 眼と心で、自然を静かに、
 觀照しつつ、歌う詩人であつ
 たと思える。

旅から旅！ 自然の美を
 満きつし、芭蕉もこの地に
 いで、千古渝らぬ、湯の
 嶽、の秀峰を、心にそめ、
 目に映じて、歩み、或は、
 由緒深き、尼子の橋上にイ
 づみて、橋上に、石城の晩
 秋の景を眺めて、旅情を慰
 めたであらう。

みちのくの尼子の橋やい
 ねの上。
 水上に橋をかくる、こと
 を常と思ふは、たしかに、

二三日前、ラデオの子供
 の時間に、今日が大詩人と
 して天性を完ふしたる、芭
 蕉が「飄泊の思ひやまず」
 として、五十一の老齡に、
 難波の路に、倒れし日との

菅笠芒鞋颯然として、風
 放送を耳にした。

地相 家相 人事 鑑定
 高野 島澤 平野 堂
 易定 断象 前所
 十月卅一日庚午九紫先負成

昔今共通的な常識であつた
 に違いない、これを裏切つ
 て、旅に老いて旅に死んだ
 人情風俗とか、自然の形態
 とかの、おんちくを重ねた
 芭蕉をして、驚きに、導い
 たるものは、尼子の橋下に
 黄金の波うつ、秋のみのり
 で、あつたに違ひなかつた

【白】金錢問題で目上と意
 見衝突を起すか或は取引上
 集金の困難ある可成亥と辰
 己凶【二黒】金談縁談望事等
 皆進て大吉利を得る日東西
 凶【三碧】新企直の件は吉
 丑寅凶【四綠】外見は良く見
 て内心に苦勞の生ずる日な
 れば水火の難に注意して忍
 耐が吉南北凶【五黄】營業取
 引等は吉なり只水火の難に
 注意して進みなさい南北凶
 【六白】氣斗り焦せりて物事
 埒も明ざる事多れば猛進凶
 病氣怪俄に注意未申丑寅凶
 【七赤】金談縁談普請の計果
 あるも家内に風波の起さぬ
 様なさい東西凶【八白】金談
 縁談共他人の應援を得て吉
 利を得る成亥と辰己は凶
 【九紫】古き事件でござい、
 するか厄介者の爲に家内に
 不和を起すか何れ凶日なれ
 ば萬事に注意

ラグビー
 飯村 閑舟
 水瓜に似たる球を蹴り
 砂のけむりにくるはしく
 亂れて咲いたユニフォーム
 ゴールドポストにそぎた
 る
 ボールキックのあざやかさ
 球よ—走れよ
 わが母に
 かくやと告げよわが誇り
 × ×
 きみ貧しさに敗れるど
 うらみは遠くあの友に
 打てよ敵なるインゴール
 しつかり抱えたその球を
 タックルくるくる轉ぶとも
 奪はれ泣きな—トライせ
 よ—
 いとしき盛りの若き友

市原醫院

平町 田町
 電話 一四番

黒小倉通學服賣出

冬服の御用意をなさいましたか
 弊店は御満足の頂ける黒小倉服を
 澤山取揃へ特價にてお務めてお
 ります.....

小學生用(長ズボン付)	
A.....	.90
B.....	1.1
特製.....	2.50
中學生用	
特製 6號.....	3.50
御注文(特上).....	6.50均一

ふかや洋服店 平町 電話 203

かまぼこ

お茶屋

平町一丁目

お惣菜用
 さつま揚
 吉原揚

電話 一四一番

太陽顔ソース

一本日質品
 スーツ顔陽太

御存知ですか!
 太陽顔ソースの
 風味を!!!

◇是非御試下さい

平一丁目(電話二二三番)
 小川屋本店
 平各販賣店

質物一般
 夜九時迄出し入れ致します

三井質店

平四(電話六〇六番)

品質第一

電話二六八番

平搾乳所

平町・九品寺前

外科

X線科
 性病科
 外科科

平町田町
 安齊外科醫院
 電話四七五番

入院隨意

月曜是非

親達と社會の反省

幼兒の完全な保育の責任を公共が分擔するの觀念に基いて江名町では無料診療の『隣保館』を建設する計劃で徐々に準備を進めて居るといふ。

斯かる機關は郡下の中心都市を以つて自他共に許す平町等には既にその試みがありてもよいに拘らず、未だ其の緒に着かず、此の先進的の社會事業の企圖を江名町に譲つた。

吾人をして忌憚なく云はしめれば、元來子供は社會の公有のもの——但し物品の如き非人格ではない——と考へる事が妥當である。子供は一人の私有物ではない、然るに、子供を單に兩親の私有物の如く思ひ込むの結果として

この子は、自分の腹を痛めたのであるから、煮て食はうと、焼いて食はうと、自分のすき勝手、この子に就いて、かれこれ他人様のお指圖を受ける必要はないといふが如きナンセンスも飛出すのである。

あるといつたとて、何もその權利の對象が子であるとすれば、子に對して義務を負ふのではない、國家社會人類に對して親は義務を負ふのであるといふのが、今日親權に對する考察となつて居る。

郡下學童競技

鮮魚を思はせる

ピチ／＼とした活躍振り

一等の受賞氏名

- 三チーム 五ノ女平二チーム 六ノ女平二チーム 高一ノ女平二チーム (六百米競走) 六ノ男内高チーム (八百米競走) 高一ノ男平一チーム 高二ノ男同(走跳) 六男内二阿部幸夫 高二男小川萩野高(三段跳) 高一男平一石川久太郎(走市跳) 五男川部伊藤源兵衛 五女平二大木アサ 六女同正木千鶴子 高一女同今田操 高二女同富田貞子(ボール投) 五男平一佐藤喜一 同女入山小野つぎ 六男平一田中忠太郎 同女平二北原琴子 高一男平一吉田昌夫 同女警高大井川ハナ子 高二男錦屋一男 同女大浦鈴木彌壽子

平町學童

競技成績

- (二百米) 高一男草野松本 義正 高二男内高菅野二男(四百米競走) 五ノ男内別項石城郡下小學校兒童陸

上競技大會に於ける入賞兒童三百名中平町各小學校の兒童成績は左の如くである (第一) 百米 五年齋藤義孝 二百米 高一佐藤喜一 六百米 競走 六年チ一ム 八十米 ハードル 一 高一先崎清一 八百米 競走 一 高二チ一ム 同 一 高一チ一ム 走 高跳 六年佐藤満夫 同 五 高二井上明 三段跳 一 高一石川久太郎 ボール投 高 高二小原次男 三 高一緑川重春 (第二) 五十米 五年渡邊イノ 百米 高二富岡久子 同 五 同矢島ノブ 同 一 高一高野弘子 四百米 競走 一 五年チ一ム 同 一 六年チ一ム 同 一 高一チ一ム 同 一 高二チ一ム 走市跳 一 五年大木アサ

入山と磐炭

遂に勝殘る

磐陽野球大會

既報磐陽野球協會主催の野球大會は昨二十九日午前九時より入山、磐炭兩球場に於て開催されたが参加チームは七組にて戦績左の如く入山及び磐炭が勝残り此の決勝戦を來る十一月三日午後二時より磐中球場に於て行ふと

Table with 2 columns: Team, Score. Includes '第一回戦' and '第二回戦' results.

同 4 同飯塚さと子 同 1 六年正木千鶴子 同 4 同森山文子 同 1 高一今田操 同 1 高二富田貞子 同 3 同尼野トミ 同 1 同 3 高一中村春子 同 2 五年尼野喜美 同志賀勝代 同 1 六年北村琴子 同 2 同長谷川喜美(第三) 百米 一 五男久保木清次 四百米 競走 一 六女チ一ム 同 5 五男チ一ム 同 4 五女チ一ム ハードル 一 六先崎茂次 走市跳 4 五年今田實

鑛山税の算定方針

本年度の常磐各炭鑛山税の算定標準は大量取引の市場と見るべきものない結果、閉田川市場を標準とすれば、鑛山側の負擔が嵩む處から、山元の市價で算定を行ふ方針である。

自動車の部分品を

共同で購入 勿來斯業者の方針 自動車協會のガソリン共同購入とならんで石城郡植田支部勿來方面有志間には自動車部分品の共同購入計劃が進められ個人購入よりも二割方安價であるといふので其の成行を注視されて居る。

無臭にんにく丸 健康福壽會員大募集!!! 非常時日本は健康より! 純精にんにく丸 無臭にんにく丸 小賣値を全廢し毎食後正確五分入り送料本社持

無代進呈 命取り菱の實で治つた経験 命取り菱の實で治つた経験 (博七も見放した重態の患者) (まで不思議に治つた實話) 右は雑誌「主婦の友」第十四卷(第九號)所載記事の全文轉載。

日本佛敎新聞社 菱の實 電話九段 三八一一番 振替東京一五六〇番 創刊十二年旬刊 一千佛書畫進呈

變態兒を一先づ 自宅に監禁して

近く東京松澤病院へ

薰陶園入りは断らるる

不起訴と決定

湯本の少女凌辱殺人未遂事件の犯人同町字辰の口佐藤正男(一)假名に關しては既記の如く平検事局に於いて精神鑑定の結果同人は低能兒で兇行當時精神喪失の状態にあつたものと認定廿八日不起訴に決定相馬の薰陶園へ送られる筈の處同園では精神異常兒は入園せしめずとの事に止むなく自宅に監禁せしめ近く東京の松澤病院に入院の手續を運ぶと

る福島中學校創立三十五週年記念繪畫展覽會に十點を出品するが氏名左の如くである

△五年(河邊作業)廣澤榮太郎(撰炭場)佐藤文雄△四年(風景)永山年雄(靜塚靜義)

各坑選り拔きの 選手四股を踏む

昨日の磐炭相撲大會

中間驛も 今は夢 廢止される

江田信號所

小川郷川前兩驛間の江田信號所は制動機が百パーセントの機能を發揮するに至り信號所の必要がなくなり來月十五日から廢止を斷行する事となつた一度は地元民より停車場に昇格されたしと運動された程である爲めこの廢止は地元民を落膽せしめて居る

警中繪畫出品

警中美術部では來月上旬開かれ

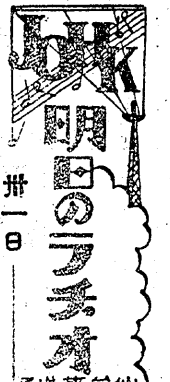
新潟行の 警察剣士達

既報來る十一月三日新潟警

磐炭女青

昨日發會式

既報磐炭城炭礦女子青年團の發會式は昨日午後一時より淺野翁頌徳記念館に於て舉行今後の事業に就いて種々協議したが終つてレコードコンサート及び映畫會あり大内民恵氏の非常時に於ける女子青年團の覺悟の講話があつた



今晩は北の風雲
日は北西の風天氣
良なる見込

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
童話劇「原の長着」熊本
童話劇協會 伴奏銀杏管
絃樂團
後六、二五 英語講座(三
の三) 源馬次郎
後七、三〇 産業ニユ

明日の部

後八、〇〇 謡曲(鳥追船)
栗谷益二郎外大勢
後八、四五 ラヂオドラマ
「後の月」喜多村綠郎河
合武雄
後九、三〇 時報ニユース
氣象通報 番組豫告

平町全兒童の 圖書展を開く

圖書展を開く

十一月十二日より三日間第二小學校新築階上に於て開催する事になつたが種目は左の如くである
創作繪畫 油繪 水彩畫 テンペラ クレオン
マンセル バステール 鉛筆畫 木炭畫 版畫
テーブ畫

罰金不納

刑務所留置

内郷村大字宮字金坂三六番音機販賣蒲生正利(三)は昨年七月平區裁判所に於て賭博罪に依り略式罰金二十圓に處せられたが未だ納付せず本日平刑務所に留置され

學業の暇に

イナゴ採り

石城郡平窪小學校では生徒八百名が學業の暇を利用して井上校長以下各訓導指揮の許に蝗取りを行つて居るが目下の相場は二升十錢であると

入山の音楽會

石城郡入山炭礦音楽部主催の三曲演奏會は昨日午後六時から入山自治館に開かれたが出演者は同病院長小川忠雄氏外十五名にて入場者は千餘名に達し盛會であつた

公民實務講習

縣主催第三回濱三郡實業公民學校女教員實務講習會は來月一日より四日間磐女校作法室に於いて開かれるが其の種目は裁縫、手藝、割烹等で經濟状況に鑑み經濟更生の女子青年の特に實行すべき事項を協議すると

裁判所送拜式

平區裁判所では來る十一月三日の明治節に際し會議室に集

前六、三〇 基礎獨語講座(十九) 橋本忠夫
前九、一〇 料理献立「鮮の生」味噌「磐井たす
前一〇、三〇 家庭講座
「男子の身嗜みに就て」ハ
リー牛山
前一〇、五〇 東京大學野
球聯盟「新人野球試合實
況」神宮球場より中繼
後〇、〇五 マンドリン合
奏 東京マンドリン
後二、〇〇 家庭講座「箏
のお稽古(一)」村田松泉
後五、二五 受験講座 英
文解釋 佐川春水

後六、〇〇 子供の時間
童話劇「べからず退治」
OAK 唱歌隊外
後六、二五 基礎佛語講座
(十四) 目黒三郎
後七、三〇 落語「素人鯉」
林家正藏
後七、五五 歌謡曲(其の
一) 淡谷のり子
後八、〇五 講談「長會根
虎徹」大島伯鶴
後八、四〇 歌謡曲(其の
二)「東京をどり」外二ツ
二三吉外伴奏
後八、五〇 浪花節「名匠
濱野矩隨」東家樂遊

裁判所だより

△小名濱町字古港三六漁業比佐庄兵衛(六)は去る五月十五日自己所有の昭三九に渡邊某を船長として乗り込ませ禁止區域の四倉町沖合に於いて底曳網をなさしめ漁業法取締違反として罪金六十圓に本日平區裁判所に於いて略式命令を以つて處分された

平職業紹介所報告

△求人を求める方
△外交員 二十五才以上
尋卒 給料上の四割(平町某)
△女中 十八才以上 尋卒
給料面談(平町某飲食店)
△大工 二十才 尋卒 日
給一圓位(湯本町某)
△店員 二十二才以下 教
育不問 月五六圓(双葉町某)
△農夫 四十才以下 教育
不問 月十圓(江名町某)
△豆腐賣子 三十才以下
尋卒 給料上高の一割五

平町人事

△行商人 二十才 乙種商
卒 給料面談(平町某)
△洋裁婦見習 二十才 尋
卒 月八圓(好間村某)
△自動車運轉手 二十二才
高卒 給料振合(植田町
某)
△職工 二十七才 尋卒
給料面談 赤井村某

平町出生

△四丁目二五新妻春次氏三
女美代子

銘劍秘双録

【禁無断轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第七十七回 血に飢ゆる村正

悪智恵の奇合ひ

源「ハッ橋のやうな間夫のある花魁に莫大の金を注ぎ込むよ外に御世話を致したいと存じます」
次「ウム、チラリと其の事も聞いたが養生榮之丞といふ人が全く附いて居るのかえ」
紋「其の證據はこれでございます」

と例の手紙を見せました見覚えのあるハッ橋の手跡殊に文の中に昨夜も化物が来た、此の頃は毎晩化物が来て困るなど、書いてある様子を見て居た佐野の次郎左衛門もさすがにムツとたけれど

次「成程此の手紙の様子では實に馬鹿にされて居るに相違ない、能く二人共親切に云ふて呉れた向後吉原の方へ足は向けまい」
源「然う仰しやつて下さいますと私共も参つた甲斐がございませう、阿波太夫や丸善はお勧め申してハッ橋太夫の所へ晝夜も分たず面白可笑くお相手は致しませうが同じ廓に居りませうも私共はそんな不實のものでございませぬ折角楽しみを在らつしやる物をこんな

事を申上げて實に相濟みません」
紋「是と云ふのも次郎兵衛様に萬分の一の御恩報じと存じます」
次「イヤモー夢が覺めました」



其の中詔へて置いた酒も肴も参りましたによつて一杯呑んでお互に四方山の話をして居りましたが、源久、紋吉の二人は暇乞をして吉原へ歸りました、扱て跡へ残つた次郎左衛門何んとなく持つたものを放したやうな心持が致しまして「ア、二人は云ふけれど真逆をそれほどの不實者でもあるまい」と、まだ迷ひが覺めな

た、今までは實に夢の中に夢を見て居たやうなもの、此の手紙はお貰ひ申して置きます」
と手箱の中へ納めて終ひ源久、紋吉へ十兩づつ、の御祝儀、強て辭退をするのを無理に二人へ渡しました、

是から行つて身受けの相談をして見やう、金を山に積んでも身受けをされるのが厭だと云へば、飽までも榮之丞に義理を立てるハッ橋の心、夫を俺の言葉に應じて身受けされて佐野へ行かうと云へば貴方は分る事、

夫が一番早手廻しと急ぐに駕籠を詔へて吉原へ参りましたのは全く迷ひでございませう、仲の町の葛屋へ来る

仲「且那何でございませう」
次「外でもないが左次右衛門を呼んで貰ひたい」
仲「家の人は少々加減が悪うございまして察へ参つて居りますから、何御用が私へ仰しやつて下さいませう」

と敷から棒を突出したやうに身受と云はれて、阿波太夫丸善も大きに驚きました

阿「大喜びでございませう善は急げと申しますから内儀さんと二人で花魁の處へ下話をしに参りませう」
次「然うかさうして呉れ、私も安心して一杯やれるどうぞ二人でハッ橋に話を

一寸行つて参ります」
阿「只今吉左右を申し上げます、皆さん宜しくお願ひ申します」
と酒の座は大勢に任し直に萬字屋のハッ橋の部屋へ参りまして橋の戸、船橋も呼びハッ橋は勿論の事で扱てどうしたら宜からう化物が身受をすると云ひ出した

仲「花魁さうばかり云つて居ては話しが分りませぬお仲さんや阿波さんの智慧を借りてどうか宜いやうにして上げます故、落付いて居なさい」
仲「阿波さんどうしたら宜からうね、男といふのはお前ばかり、宜い考へを出してお呉れ」

と敷から棒を突出したやうに身受と云はれて、阿波太夫丸善も大きに驚きました

阿「大喜びでございませう善は急げと申しますから内儀さんと二人で花魁の處へ下話をしに参りませう」
次「然うかさうして呉れ、私も安心して一杯やれるどうぞ二人でハッ橋に話を

松島名産

美味と滋養で名高い一の井の

力キ貝 御料理

獨カキフライ……廿五錢
カキナベ……四十錢
特カキス……廿五錢

一の井
電一六七番

乞御期待 近日上映

非常時全日本國民に捧ぐ!! 感激篇來る
オールトキー史上初ての光榮に浴す
賜天覽 台覽 文部省御推薦の光榮

楠公父子

早川 雪洲 澤村昌之弼主演
池田富保監督 渡邊霞亭巨 作

大津一大津座 内郷一磐城劇場
高萩一明座 平一聚樂館
磯原一公開堂 四倉一四倉座
湯本一湯本座 浪江一浪江座
小名一磐城座 小高一小高座
江名一江樂館

大森發聲映畫社超特作常響の映畫殿堂磐城劇場提供

服倉小黒 賣出し

小學生 中學生 小學生
上等品 特製A 特製B
一圓六十錢 三圓五十錢 三圓二十錢

紺ヘル 三圓二十錢ヨリ

平町 正札堂洋服店 電話四六